

『日本画』の前衛 1938-1949」展が始まります！

会期：9月3日（金）から10月17日（日）まで

この展覧会は、京都国立近代美術館で1999年度の特別展として開催した「日本の前衛 ART INTO LIFE 1900-1940」展の最終章「日本画『前衛』の葛藤」を、10年の歳月をかけて満を持してさらに深め紹介するもので、皆様の「日本画」に対して抱かれているイメージが一新するものと期待しています。当館では、この『日本画』の前衛展が閉幕したのち、「上村松園」展を開催いたしますが、両展を比較してご覧いただくことも大変興味深いでしょう。

それでは『日本画』の前衛 1938-1949」展について少し紹介し、コンサートについてもご紹介いたします。

今回の展覧会は、会場正面に「これが日本画？」と驚くような作品をまず展示しています。それが、山岡良文の《シュパンヌク》と山崎隆の《象》と題された作品です。「シュパンヌク」はドイツ語で「緊張」という意味です。それでは、なぜ「日本画」の作品にこのようなタイトルがつけられたのか。それは解説会で詳しくお話するとして、このような奇抜な作品が生み出された背景には、何と当時の美術教育の世界とも関連性が深いことがわかりました。そして山崎隆の《象》の作品も、完全な「抽象画」として、それまでの「日本画」の世界には現れなかった、まさに「前衛」表現なのです。

こうした作品が一堂に並んだのが、1938年に結成された「日本画」の前衛集団「歷程美術協会」の展覧会でした。

そして興味深いのは、今回はじめて紹介する第1回「歷程展」会場におかれていた『芳名録』には、多数の「前衛」洋画家たちが記帳していました。鬚光は真っ先に会場に足を運び、山口薫、小野里利信、村井正誠といった「前衛・洋画家」たちのほか、瀧口修造や東山魁夷も会場を訪れていたのです。このささやかな一冊の『芳名録』からも、「歷程美術協会」がどのような性格をもった画家集団であったかがわかり興味はつきません。

さらに、本展覧会のもうひとつの見どころは、このような「前衛」動向が、まさに「太平洋戦争前夜」といべき非常時に誕生したことです。国家総動員法や灯火管制も行われ、本来ならば絵を描くところではない時代です。もちろん「歷程美術協会」もこうした時局の影響を受け、展覧会の回を重ねて「戦争画」も多数出品されるようになります。

本展覧会でも、このような「戦争画」も紹介しています。そして、残念ながら「日本画の前衛」は「未完の前衛」に終わってしまいましたが、戦後は「歷程美術協会」の再興を願って、1949年に「パンリアル」協会が誕生します。今回の展覧会では、こうした戦前・戦後の激動の「日本画」動向を、はじめて紹介いたします。

会場には、皆様もはじめてご覧になる作品が多数並び、あらためて「日本画とは何か」という思いを強くされるに違いありません。展覧会をどうぞご期待いただくとともに、この展覧会閉幕の後に開催する「上村松園」展とも、ぜひ比較して「日本画」表現の幅広さをご堪能ください。



山岡良文 《シュパンヌク》 1938



山崎隆 《象》 1938



船田玉樹 《花の夕》 1938

● 解説会のお知らせ ●

友の会会員の皆様方のために、下記のとおり、『日本画』の前衛展をご覧いただく上で欠かせない秘蔵の資料を紹介した後、この展覧会を閉館後、ゆっくりと解説を交えて鑑賞いただく特別の機会を設けました。

日時：9月25日（土）午後4時～5時40分頃
午後4時に1階インフォメーション集合
定員は10名（先着順）

解説とご案内

：山野英嗣（当館学芸課長、本展覧会企画者）
朴 鈴子（当館研究補佐員）
※申込方法は下記にてご確認ください。

● テルミンコンサート ●

当コンサート・メイン演奏者は、この『日本画』の前衛展にも出品され、「歷程美術協会」展にも《花の夕》を出品していた船田玉樹の御息・船田奇岑氏です。

船田奇岑氏は、わが国で数少ない「テルミン」の本格的な演奏者として知られ、絵師、そして表具師でもあるという多彩な方でもあります。「テルミン」は、ヨーロッパ・アヴァンギャルドが開花した1920年代に生まれた世界初の電子楽器ですが、船田氏はシンセサイザーも駆使しながら演奏されます。コンサートのテーマも、ずばり「シュパンヌク・電子の和と緊張」。ほとんど演奏を聴く機会のない「テルミン」とともに、「日本画の前衛」にも思いをはせていただければと思います、特別に企画いたしました。

このコンサートにも「友の会」会員の皆様には、最前列でお聞きいただけるように、先着20名の方をご招待いたします。

日時：9月24日（金）午後6時～
先着20名様は最前列にてご鑑賞いただけます。
場所：当館一階ロビー
※申込方法は下記にてご確認ください。

解説会・コンサート申込方法

申し込み先：京都国立近代美術館事業係

電話 075-761-4115

（受付は、月曜から金曜日まで午前10時から17時）

※お申し込みの際は「お名前」「会員番号」「参加を希望するイベント名」とおっしゃってください。

※定員に達し次第、終了いたしますので、早めにお申し込み下さい。

講演会日程

日時：9月26日（日）午後2時から3時30分まで

会場：京都国立近代美術館1階講堂

演題：「日本画のアヴァンギャルド 戦前から戦後へ」

講師：菊屋吉生（山口大学教授）

定員：100名（聴講無料、当日午前11時から受付にて整理券を配布します）

親子鑑賞会

日時：10月9日（土）午前10時から12時まで

会場：京都国立近代美術館1階講堂及び3階展示室

内容：展示室で印象に残った作品を1点選び、参加者全員で語り合い、展覧会についての理解を深めます。

対象：小学生と保護者の方々、定員20名。

（参加無料、ただし保護者の方は観覧券が必要、先着順。）

指導：朴鈴子（当館研究補佐員）

山野英嗣（当館学芸課長、本展覧会企画者）

申し込み先：京都国立近代美術館 075-761-4111

（受付は、月曜から金曜日まで午前10時から17時）

NFC 所蔵作品選集

MoMAK Films @ Home



「兄いもうと」



「からゆきさん」

【戦前の前衛を中心とする日本映画上映】

日時：10月9日（土）・10日（日）14時～

作品：10月9日（土）

① 14:00～15:34

「鏡 SPIEGEL」（貴志康一監督、1933年）

「春」（貴志康一監督、1934年）

「萩野茂二監督作品」ほか

② 15:55～18:22

「月よりの使者」（田坂具隆監督、1934年）

10月10日（日）

③ 14:00～15:01

「兄いもうと」（木村莊十二監督、1936年）

④ 15:15～16:14

「からゆきさん」（木村莊十二監督、1937年）

会場：京都国立近代美術館1階講堂

料金：1プログラム500

主催：京都国立近代美術館

東京国立近代美術館フィルムセンター